

千葉県成田市大安場Ⅱ遺跡 成田市吉岡字大安場

首都圏中央自動車道建設（大栄～横芝）に伴い、平成29年1月10日～1月31日に発掘調査を実施しました。

遺跡は西に尾羽根川を望む台地平坦部に位置しています。この付近は北に東関東自動車道、西に成田国際空港が所在し、関連の発掘調査によって多くの旧石器・縄文時代の遺跡が発見されています。

調査の結果、地表下約30cmから、旧石器時代 終末の尖頭器（石槍）の一群がまとまって出土しました。未整理のため、あくまで途中経過ですが、現在、尖頭器は15点確認されています。使用された石材は、黒色頁岩、チャート、ガラス質黒色安山岩、ホルンフェルス、トロトロ石、珪質頁岩、ノジュールがあり、いずれも県外からもたらされたようです。

発見された尖頭器は、細身で肉厚な形態を呈しており、最初に注目された新潟県津南町本ノ木遺跡の名前を冠して「本ノ木型尖頭器」と呼ばれています。

本ノ木型尖頭器は、現在、全国で123か所・3,800点を超える資料が発見されています。このうち千葉県の出土例は半数（67か所）を占め、本県を代表する考古資料のひとつとなっています。

本ノ木型の遺跡の中には、本ノ木遺跡や東京都あきる野市前田耕地遺跡などのように尖頭器類の出土量が1,000点を超える大規模な製作遺跡もありますが、大半は単独出土です。おそらく集落というよりも狩場（使用の場）としての性格が強かったのではないのでしょうか。

ちなみに、本遺跡のような二ケタを超える出土例は、本ノ木遺跡や前田耕地遺跡のほかに、群馬県伊勢崎市石山遺跡、千葉県柏市元割遺跡・四街道市木戸先遺跡・富里市南大溜袋遺跡・千葉市子和清水遺跡・同宮野木境第1遺跡・同弥三郎第2遺跡・君津市向郷菩提遺跡、東京都町田市なすな原遺跡、神奈川県綾瀬市吉岡遺跡群C区などがありますが、限られています。このなかでは君津市向郷菩提遺跡（平成15年度調査）が最も新しい調査成果であり、その意味では本例は久しぶりの発見といえます。

